

極東國際軍事裁判所

並米利加合衆國その他

對

荒木貞夫 其他

宣 審 供 述 審

供 述 者 有 田 八 郎

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ元ヅ別紙ノ道ニ宣審ヲ爲シタル上次ノ
如ク供述致シマス

一、経歴 齋藤内閣外務次官、第一次近衛内閣外務大臣、平沼内閣外務大臣、米内内閣外務大臣

一、荒木氏との關係、齋藤内閣にて荒木氏が陸相の時私は外務次官であり、第一次近衛内閣及平沼内閣の時荒木文相と共に關係してありました又米内内閣の時には荒木氏は内閣參事であり私は外務大臣でありました、其後兩人共公職になつたが私的會合で面談した事は度々ありました

一、荒木氏と五相會議、私が第一次近衛内閣の外務大臣になつたのは内閣の末期であり、次いで平沼内閣に留任になつたのでありますが此等の内閣に於ては重要なる時局問題を討議する爲首相、陸、海、外、大藏の五大臣より成る五相會議が開かれ例へば防共協定強化問題（所謂三國同盟問題）の如きも此會議に於て討議せられたのであります。然し荒木氏は文相で有りましたので五相會議には勿論加はりませんでした

一、荒木氏と精神總動員委員長、荒木氏は精神總動員委員長をして居

りましたが、それは文相の地位が国民思想面に経故が深いので

同様に任命せられたものと記憶して居ります

一、荒木氏と日獨伊文化協定、日本は獨伊との間に文化協定を締結
しました。が之は單に獨乙、伊太利とばかりでなく出来るだけ多くの
國と民種の協定を結ぶ方針でありました

從て獨伊との外ハンガリー、フラジル、泰國等とも文化協定が締結
せられました。又文化協定は結んで無かつたが波蘭、葡萄牙、アル
ゼンチン、白耳義等とも種々の文化交換を實行し米國との間にも柔
港に於ける萬國博覽會に際し日本百美術の展覽會を開催して居ます、
此種協定は世界の文化交流を目的とする文化問題でありますので
協定の締結を初の其の實施等については外務省は文部省と相談をし
てやつて居たのであります。兼乘としては先づ美術工藝品の展覽、
學生教授の交換等を主として居りました。荒木文相は廣く世界の文
化の交流を主張して獨、伊に限定せざることを強調して居りまして
外務省と同意見でありました

一、荒木氏と三國同盟、荒木氏が三國同盟や各種の統制に反対であつたことは種々の私的會合の機會に於て聞いて居りました、平沼内閣が所謂三國同盟問題で辭職することゝなりました際の後継内閣主權としては阿部信行、池田成彬氏等と共に最も有力な候補者であつたやうに承知して居りますか、荒木氏が同盟問題につき此の案を考方を持つてゐた事が其の真なる理由の一つと云つてよからうと思ひます

以上

昭和二十二年（一九四七年）三月二十二日 於東京

供 送 者 有 田 八 郎

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同 日 於 同 所

立會人 菅 原 隆